マルクス=エンゲルス全集版

剰余価値学説史

7

KARL MARX

THEORIEN ÜBE

DEN MEHRWER

剰余価値学説史(7)（全9冊）

1971年2月20日第1刷発行
1982年3月20日第3刷発行

定価はカバーに表示してあります

訳　者© 岡崎次郎
時永淑

発行者　平智享

〒113 東京都文京区本郷2-11-9
発行所　株式会社　大月書店

印刷　三晃印刷
製本　田中製本

電話(営業)813-4651(編集)814-2931 振替 東京3-16387

Printed in Japan

本書の内容の一部あるいは全部を無断で複写複製(コピー)することは法律で認められた場合を除き，著作者および出版社の権利の侵害となりますので，その場合にはあらかじめ小社あて許諾を求めてください

国民文庫

26

剰余価値学説史

（『資本論』第四巻）

（7）

カール・マルクス 著

岡崎次郎
時永淑 訳

凡　例

一　本文庫版は、ドイツ社会主義統一党中央委員会付属マルクス＝レーニン主義研究所編集の『カール・マルクス＝フリードリヒ・エンゲルス全集、第二六巻、全三分冊』(Karl Marx-Friedrich Engels Werke, Band 26, Institut für Marxismus-Leninismus beim ZK der SED, Dietz Verlag, Berlin, Erster Teil 1965, Zweiter Teil 1967, Dritter Teil 1968)の翻訳である。収載されているのは『剰余価値に関する諸学説』(『資本論』第四巻)(Theorien über den Mehrwert (Vierter Band des „Kapitals")) である。これは、わが国では従来『剰余価値学説史』と呼ばれているもので、この訳書でも書名をさす場合にはそれを用いておいたが、そのほかはすべて『剰余価値に関する諸学説』と訳出した。

一　この第二六巻は原書では三分冊から成っているが、本文庫版では取扱いの便宜上各分冊をさらにそれぞれ三冊に分け、(1)から(9)までの通し番号を各文庫版につけた。

一　本文中、右わきにある＊印はマルクスの原注を、丸括弧内のアラビア数字通し番号（1）（2）などはドイツ語版編集者の注および訳者の注を示し、ともに各段落の後に記載した。訳者の注には、編集者の注と区別するため注の文末に訳者と付記した。

また丸括弧内の漢数字通し番号（一）（二）などは、ドイツ語版編集者の注解を示し、各文庫

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

版の巻末に、その文庫版に関係のある注解を一括してかかげた。この注解指示のための通し番号は、全集第二六巻の第一分冊にあたる本文庫版(1)—(3)、第二分冊にあたる(4)—(6)、第三分冊にあたる(7)—(9)で、それぞれ(一)から始まり、別になっている。

一　文献目録、人名索引、度量衡および通貨表は、本文庫版(3)、(6)、(9)の各巻末に収め、事項索引（文庫版全体の）は本文庫版(9)の巻末に収めた。

一　ドイツ語版編集者の注、注解、文献目録のなかで全集としてあるのは、マルクス＝レーニン主義研究所編集の『マルクス＝エンゲルス全集』（ディーツ社発行）をさす。

一　本文上欄の丸括弧内のアラビア数字は原書のページを示す。この原書ページは、全集第二六巻の第一、二、三分冊のそれぞれで別になっており、本文庫版では(1)—(3)、(4)—(6)、(7)—(9)の三冊ごとに、それに一致させてある。なお、ディーツ社からは、全集第二六巻が出版される前に、『剰余価値学説史』の単行書が三冊本で一九五六—一九六二年に出版されたが、そのページ付、引用文の表示の仕方などは、この全集版とは違っている。

一　注解、文献目録、人名索引、事項索引の末尾の数字、および編集者注と訳者注に出てくる参照ページは、すべて原書ページ（本文上欄の丸括弧内のアラビア数字）を示す。

一　原文のイタリック体の部分は傍点をつけて示した。原文の隔字体およびゴシック体の部分は訳文ではゴシック体にした。ただし、見出し、書名などは傍点を省略し、また、注解、文献目録、人名索引、事項索引は原則として傍点を省略した。

一　本文中の引用文は、一字分下げてやや小さい活字にした。

一　マルクスの引用文とその原典とのあいだに相違のあるものは、全集第二六巻では、各分冊の巻末にマルクスの手稿と精確に同じものが付録として収載されており、原典との相違についてドイツ語版編集者の脚注がつけられている。本訳書では、この巻末付録に所収のマルクスの引用またはマルクス自身のドイツ語訳によって訳出し、編集者の脚注は必要と思われるかぎりで訳出した。ただし、アダム・スミスの『諸国民の富』からの引用文はキャナン版(Edited by Edwin Cannan, in 2 Vols., 6th edition, London, 1950)によって訳出し、マルクスの利用した各版からの引用文と相違する箇所は必要と思われるかぎりで指摘しておいた。

一　マルクスが本文中で使っている多くの外国語は、原則として原文記載を省略したが、特に必要と思われる場合には原語を角括弧〔　〕に入れて示した。

一　本文中、弓形括弧（　）〔　〕に入れてあるのは、マルクス自身が手稿で角括弧に入れた箇所を示し、太いほうは、かなり長い論述の箇所を示す。楔形括弧〈　〉に入れてあるのはマルクスが手稿で横線を引いて消した箇所のうちドイツ語版編集者が重要と考えて本文中に取り入れた箇所を示す。

一　本文および引用文中、角括弧〔　〕に入れてあるのは、主としてドイツ語版編集者が原文に挿入した説明または補足のための語句を示す。なお訳者によるものも区別せずに、この角括弧によって示した。

一　マルクスの手稿ノートの番号およびページ数は、各ノートのはじめの箇所に一度だけ、た

とえば ⅩⅩ－四四五一 というように示してある。（ローマ数字は手稿ノートの番号を示し、漢数字は手稿ノートのページ数を示す。）また、同一ノートのページ数は、各ページのはじめに 二四四六一 というようにページ数だけ示してある。ただし、本文の置き換えと別のノートへの移行との場合は、その本文の始めと終わりにそれぞれ ⅩⅩⅡ－一三九七一 および ⅩⅩⅡ－一三九七二 というように表示してある。

一　引用文献のうち邦訳のあるものは、全集の邦訳版に収載のものを除き、おおむね入手しやすいもの一種を角括弧〔　〕内に示した。

一　原書の付録のうち略語表は訳書には不要と思われたので収載しなかった。

一　翻訳は、本文庫版(1)―(7)の本文および補録を時永淑が、(8)(9)の本文および補録、序文（(1)に所収）、文献目録、人名索引、度量衡および通貨表、事項索引を岡崎次郎が担当し、その訳文について両者が術語、文体などの整理、統一を行なって完成したものである。

目　次

第一九章　T・R・マルサス……一五
一　マルサスによる商品範疇と資本範疇との混同……一六
二　剰余価値に関するマルサスの俗流的見解……二五
三　労働者階級にたいする態度におけるマルサス学派とリカード学派との共通な特徴……三二
四　マルサスによるスミス価値論の一面的な解釈。リカードとの論争のなかでのスミスのまちがった命題の利用……三四
五　不変の価値に関するスミスの命題のマルサスによる解釈……三九
六　労働価値論を反論するにあたっての、マルサスによるリカードの価値法則修正の命題の利用……四四
七　マルサスの通俗的な価値定義。利潤を価格への付加分とみなす彼の見解。相対的労賃に関するリカードの見解にたいする反論……四九

八　生産的労働と蓄積とに関するマルサスの所説……五五
(a)　生産的労働と不生産的労働……五五
(b)　蓄　積……五六
九　不変資本と可変資本（マルサスの見解における）……五八
一〇　マルサスの価値論……六三
一一　過剰生産。「不生産的消費者」等々……六六
一二　リカードにたいするマルサスの反論の社会的本質。ブルジョア的生産の諸矛盾に関するシスモンディの見解の歪曲……八七
一三　「不生産的消費者」に関するマルサスの見解にたいするリカード学派の批判……一〇一
一四　マルサスの諸著書の弁護論的で剽窃者的な性格……一〇六
一五　匿名の著書『経済学概論……』のなかで明示されているマルサスの諸原理……一〇九
第二〇章　リカード学派の解体……一二〇
一　R・トレンズ……一二〇
(a)　平均利潤率と価値法則との関係に関するスミスおよびリカードの所説……一二〇

(b)「労働の価値」と利潤の源泉との規定におけるトレンズの混乱……一二四
(c)トレンズと生産費の概念……一三八
二　ジェームズ・ミル……一四七
(a)剰余価値と利潤との混同……一四九
(b)資本と労働とのあいだの交換を価値法則に一致させようとするミルのむだな試み……一五五
(c)産業利潤の規制的役割についてのミルの無理解……一七三
(d)需要、供給、過剰生産……一七六
(e)プレヴォ。リカードおよびジェームズ・ミルのいくつかの結論の拒否。利潤の不断の減少は不可避的でないことを証明しようとする試み……一八三
三　種々な論争書……一九五
(a)『経済学における若干の用語論争の考察』。経済学における懐疑論……一九四
(b)『……原理の研究』。恐慌をひき起こす資本主義的生産の諸矛盾の無理解……二〇七

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

(c) トマス・ド・クインシ。リカード的立場の欠陥を克服することの不可能……三二〇
(d) サミュエル・ベーリ……三二二
(α)『経済学における若干の用語論争の考察』および価値の規定に関するベーリの表面的な相対主義。労働価値論の拒否……三二三
(β)「労働の価値」および利潤の規定におけるベーリの混乱。内在的な価値尺度と、商品価値または貨幣価値という表現との混同……二六三
(γ) ベーリによる価値と価格との混同……二八五
四 マカロック……三〇一
(a) リカードの体系を首尾一貫させるという外観のもとでのそれの俗流化と完全な解体。資本主義的生産の無恥な弁護。非良心的な折衷主義……三〇一
(b) 労働概念の自然過程への拡張によるそれの歪曲。交換価値と使用価値との同一視……三一七
五 ウェークフィールド。労働の価値および地代に関するリカードの理論にたいする異論……三三八

六　スターリング。需要供給による利潤の説明……三四〇
七　ジョン・ステュアート・ミル……三四三
（a）剰余価値率と利潤率との混同。「譲渡にもとづく利潤」の観念の諸要素。「前貸利潤」に関する混乱した諸見解……三四三
（b）資本家が自分の不変資本を自分で生産するように変わる場合に起こる利潤率の外観上の変化……三八三
（c）不変資本の価値変動が剰余価値や利潤や労賃に及ぼす影響について……三九〇
八　リカード学派への結論的覚え書き……四二二
注解……四二三

『剰余価値学説史』各冊目次（全九冊）

文庫版(1)

序文
手稿『剰余価値に関する諸学説』の内容目次
一般的覚え書き
第一章　サー・ジェームズ・ステュアート。「譲渡にもとづく利潤」と富の積極的増加との区別
第二章　重農学派
第三章　A・スミス

文庫版(2)

第四章　生産的労働と不生産的労働とに関する諸学説

文庫版(3)

第五章　ネッケル。資本主義における階級対立を貧困と富との対立として示す叙述
第六章　余論。ケネーによる経済表
第七章　ランゲ。労働者の自由に関するブルジョア的－自由主義的見解にたいする論難
補　録
文献目録、人名索引

（(1)～(3)は全集第二六巻第一分冊）

文庫版(4)

第八章　ロートベルトゥス氏。余論。新しい地代論
第九章　いわゆるリカードの法則の発見の歴史に関する覚え書き。ロートベルトゥスに関する補足的覚え書き（余論）
第一〇章　費用価格に関するリカードおよびA・スミスの理論（反論）
A　費用価格に関するリカードの理論
B　費用価格に関するスミスの理論

文庫版(5)

第一一章　リカードの地代論
第一二章　差額地代の表とその解明
第一三章　リカードの地代論（結び）
第一四章　A・スミスの地代論
第一五章　剰余価値に関するリカードの理論

A　利潤および地代に関するリカードの所説
B　剰余価値に関するリカードの所説

文庫版(6)

第一六章　リカードの利潤論
第一七章　リカードの蓄積論。それの批判（資本の根本形態からの恐慌の説明）
第一八章　リカード雑論。リカードの結び（ジョン・バートン）
A　総所得と純所得
B　機械　機械が労働者階級の状態に及ぼす影響に関するリカードとバートンの所説
補　録
文献目録、人名索引

（(4)～(6)は全集第二六巻第二分冊）

文庫版(8)

第二一章　経済学者たちにたいする反対論（リカードの理論を基礎とする）
第二二章　ラムジ
第二三章　シェルビュリエ

文庫版(9)

第二四章　リチャード・ジョーンズ
補　録　収入とその諸源泉。俗流経済学
文献目録、人名索引、事項索引

（(7)～(9)は全集第二六巻第三分冊）

(7)

〔第一九章〕T・R・マルサス(一)

三XIII－七五三一　ここで考察されるマルサスの諸著書は次のとおりである。

一、『価値尺度の説明と例証』、ロンドン、一八二三年〔玉野井芳郎訳『価値尺度論』、岩波文庫版〕。

二、『経済学における諸定義……』、ロンドン、一八二七年〔玉野井芳郎訳『――』、岩波文庫版〕。（これについては、ジョン・ケーズノヴによって編集された同じ著書、ケーズノヴの「注および補遺」つき〔小松芳喬訳『――』、実業之日本社〕をも見るべきであろう。）

三、『経済学原理……』、第二版、ロンドン、一八三六年〔吉田秀夫訳『――』、岩波文庫版〕（初版〔小林時三郎訳『――』、岩波文庫版〕は一八二〇年かそこら、調べて見ること）。

四、なおマルサス主義者(二)（すなわちリカード派と対立したマルサス主義者）の次の著書『経済学概論……』、ロンドン、一八三二年、をも考慮するべきであろう。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com